

きょうと福祉倶楽部だより

2018年 10号



命を預かる現場のお寒い実態

在宅ホスピス協会全国大会に参加しました



11月2日から4日の日程で「あなたと生きたい 家でいきたい～大切なものを守るために」をテーマに金沢市で第21回日本在宅ホスピス協会全国大会が開催されました。

きょうと福祉倶楽部は「住み慣れた家で最後まで過ごす」事のできる実践を目指している活動をしています。そこで会長の小笠原先生のお話をいただいたこともあり勉強のためケアマネージャーが参加しました。

残念な事にスケジュールの都合で3日間のプログラムのうち一日の参加でしたが全国の貴重な実践は大いに刺激を受けました。

とりわけ会長の小笠原医師の市民公開講座は

「なんとめでたいご臨終～ホスピスケアの贈り物」と題し、先生の多くの実践例が示され、医療者や介護職が諦めずにご自宅での最期の時間を患者さんと作り上げる経過がたくさん示されました。

わたしたちも最期まで独り暮らしの人の生活を支えた経験を積んできた反面、「独り暮らしはむり」と周囲の諦めから本人の意に反した最期の時間も見てきました。でも、様々な工夫があれば在宅での最期は提供ができるものだと先生の実践にあらためてわたしたちが目指す在宅介護の必要性を確認しました。

全国で同じ思いで実践を積み重ねる人たちから多くの知恵を頂く事ができた貴重な時間でした。

日本医療労働組合連合会(日本医労連)の機関紙『医療労働者』2018年2月22日号に「2017年介護施設夜勤実態調査」の調査結果が掲載されていました。この調査は全国にある介護施設165施設から回答が寄せられたものだそうです。

その結果は予測どおりでした。「命を預かる施設がこんな状況なの?」と皆さんも驚かれると思います。

調査によると「2交代夜勤」施設が9割を占め、うち8割以上が16時間以上の夜勤。そしてそれにもかかわらず仮眠室は約半数に無い実態が示されました。

その夜間の過酷な長時間労働を一人体制で多くの施設がやっているのです。

介護保険の施行後の特別養護老人ホームはそれ以前と比べて、重度化した高齢者のかたが多く入所するようになっていきます。そして今は「要介護3」以下の高齢者は入所資格すらありません。

グループホームも1ユニットに9名の利用者がいらっしゃいます。その人たちも重度化しています。そんな現場を一人で回す事がどれだけ過酷かは想像に難くありません。

重度化が進む介護の現場。労働の質は過酷になっています。それは、高齢者を大切にしない国、日本を象徴する事実では無いでしょうか?

2 交替制の夜勤体制 (%)

業 態	0.5人	1人	1.3or1.5人	2人	2.3or2.5人	3人	3.3or3.5人	4人
特 養	15	47.5		30		7.5		
老 健		21.3	6.4	38.3	21.3	10.6		2.1
GH(グループホーム)		100						
小規模・看護小規模		100						
短期入所		43.8	6.4	43.8				

